

[様式 9 - 1]

## 福祉サービス等第三者評価結果

## 総合評価

受診施設名	社会福祉法人榎原福祉会 榎原保育園	施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

2021 年 10 月 26 日

総 評	<p>榎原保育園は、昭和49年に地元住民の長年に亘る要望により公設民営として60名定員で開設され、平成17年に社会福祉法人榎原福祉会として認可された後も、地域の方々による役員構成を背景に、地域住民と園が協力しながら地域に根差した施設として今日に至っています。</p> <p>一人一人の子どもと保護者に保育者、全てがより良い環境にある事が大切であると考えており、それが職員の子どもと保護者への丁寧なかかわりにつながると考えています。「保育園で育つ」をモットーに、子ども同士の関りや、色々な体験や経験をしながら生活習慣が身につくよう努めています。乳幼児の成長著しい時期に保護者の方と一緒に子育てできることに感謝し、大切な時間を共に協力しながら過ごしたいと考えています。</p> <p>子育て支援室を園庭東側に増設したり、60名定員から30名増の90名定員にする為に、隣接する民家を購入し増改築を実施した際にも、地域の信頼があり近隣住民の理解のもと進める事が出来ています。立地する地域でも少子化の影響が出始めていますが、地域との信頼関係を優先的に心がけて来たことで、園運営の安定につながっています。</p> <p>園長は、榎原保育園で保育士として働いてきた経験から感じていたアイデアを、職員の働きやすい環境の整備にも活かしています。また、今まで培ってきた保育内容と共に、地域との繋がりも継続性を持って取り組んでいます。若手からベテランに至るまで、管理者とのコミュニケーションを大切にし、子どもたちが過ごす園の場が充実した環境となるよう努めています。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> <li>働きやすい環境として、土曜日出勤の回数を減らしたり、週 37.5 時間就労化や、ノンコンタクトタイムが取れるよう人員体制を整備するなど、様々な取組を明文化し実施しています。年 1 回の管理者との職員面談では、面談シートをもとに本人の目標と共に、意向や就労状況について話し合い、改善に繋がるよう取り組んでいます。職員の平均勤続年数が 17 年を超えている事からも、働きやすい環境の整備に努めている事が伺えます。</li> <li>災害発生時の対応マニュアルを常時携帯出来る手帳サイズで作成し、全職員に配布し、実際に災害が発生した時に手順に沿って対応が出来るよう取り組んでいます。</li> <li>保育者が園児に丁寧に関わる姿があり、子どもが自分で考え、生活習慣が身につくよう促している様子がありました。また、朝の会では多くの子どもに言葉がけをする保育者の姿があり、一人一人の子どもを受容した保育に努めています。</li> </ul>

<p>特に改善が 望まれる点(※)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・定期的に全体的な計画の評価を実施し、次の作成に生かすよう取り組まれるとより良いでしょう。</li><li>・内科健診・歯科健診を定期的実施し、必要に応じて、その内容を保護者に知らせています。今後は、健診結果を全ての保護者に伝えるとより良いでしょう。</li><li>・今まで虐待案件になるような園児がいなかった事もあり、文書化されたマニュアルが無く、色々な参考資料をもとに対応出来るようにしています。今後は、その内容について職員間で共通理解が持てるようマニュアル等を整備されるとより良いでしょう。</li></ul>
---------------------------	---

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

# 京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

## 【保育所版】 評価結果対比シート

(注)判断基準「a b c」について

【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご留意下さい】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	社会福祉法人榎原福祉会 榎原保育園
施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人京都府保育協会
訪問調査日	2021年10月26日

**I 福祉サービスの基本方針と組織**

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	a

[自由記述欄]

・保育の理念、基本方針、目標について明文化されています。それらはホームページや園内に掲示されており、周知が図られています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-2 経営状況の把握	I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b	a
		3	② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	b	a

[自由記述欄]

・地域の方で構成された運営委員によって設立された園の為、理事会・評議員も地域の民生・児童委員など地域の方が担っており、近隣の保育ニーズ等について、多くの情報提供があり、その把握に努めるようにしています。また、毎月一回開催の西京区の園長会や西京区役所のはぐくみ室から定期的に発信される情報についても理解し、事業経営に反映させるようにしています。令和3年度より周辺では定員割れの施設が増加しており、危機感を持って情報収集に努めています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-3 事業計画の策定	I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	b
		5	② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	b
	I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b	b
		7	② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a	b

[自由記述欄]

・法人の中・長期計画、単年度の計画が策定されています。今後は、中・長期計画の裏付けとなる収支計画を策定されると良いでしょう。その実施状況の評価・見直しについては、必要な時に職員で見直し会議を実施しています。今後は、定められた時期に計画を組織的に見直すなど仕組みを構築されるとより良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	8	① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	a
		9	② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b	a

[自由記述欄]

・毎月の全体職員会議や、年度末の総括会議で、各クラスの報告、振り返り、反省を実施し、次の計画に反映するよう取り組んでいます。特に年度末の総括会議では各クラスで次年度につながるよう振り返り資料を作成し、園全体で保育内容を共有出来るよう取り組んでいます。

**II 組織の運営管理**

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-1 管理者の責任とリーダーシップ	II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b	a
		11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b	a
	II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	a
		13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	a

[自由記述欄]

・施設長は、永年、椋原保育園で保育士として務めており、職員間の推薦を持って理事会・評議員会で選任されています。キャリアパス制度の仕組みの中でも、その役割と責任が明記されています。また、全ての職員会議への出席や、園だよりに園長のことばを毎月掲載するなど、園の方針の発信と共に、それに沿った保育が実践されるよう努めています。

・遵守すべき法令等について把握し、法令遵守規程を周知させると共に、日々の行政からの法令や連絡事項については、全職員に回覧を実施し周知に努めています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	a
		15	② 総合的な人事管理が行われている。	a	a
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	a	a

[自由記述欄]

・人材の確保・定着等に関する取り組みとして「きょうと福祉人材育成認証制度」を取得しています。

・働きやすい環境として、土曜日出勤の回数を減らしたり、週37.5時間就労化や、ノンコンタクトタイムが取れるよう人員体制を整備するなど、様々な取組を明文化し実施しています。年1回の管理者との職員面談では、面談シートをもとに本人の目標と共に、意向や就労状況について話し合い、改善に繋がるよう取り組んでいます。職員の平均勤続年数が17年を超えている事からも、働きやすい環境の整備に努めている事が伺えます。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-2 福祉人材の確保・育成	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	a
		18	② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	a
		19	③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	a
	II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	20	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	a

[自由記述欄]

・椋原保育園独自のキャリアパスに基づき階層別人材育成計画を作成しており、年度始めに各職員がたてた目標や面談で話し合った内容の研修に参加しています。

・実習生の受入れマニュアルを整備し、実習生を受入れています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-3 運営の透明性の確保	II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	a
		22	② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	b
[自由記述欄]					
<p>・運営内容や財務内容に関して、ホームページで公開しています。今後は、事業や財務に関する内容について、公認会計士等による外部監査などを活用し定期的にチェックや指導を受けるとより良いでしょう。</p>					

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
II-4 地域との交流、地域貢献	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	23	① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	a
		24	② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	a
	25	① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	a	
	26	① 保育所が有する機能を地域に還元している。	b	a	
	27	② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b	b	
[自由記述欄]					
<p>・「椋原学区子育て支援連絡会」に参加し、民生児童委員などとも連携し、災害時における役割についても確認しています。地域の高齢者向けサロンの為に専用スペースを提供すると共に、年2回、地域の高齢者施設に園児が出向き、交流を図っています。また、年4回、園で移動動物園を実施しており、地域の子どもも参加出来るよう案内したり、園児の小学校行事への参加も行うなど地域交流を行っています。</p> <p>・地域子育て支援事業に取り組んでおり、園庭開放やプレイルームの開放、未就園児の一時預かり保育を実施しています。今後は、実施している福祉活動を計画等に明示されるとより良いでしょう。</p> <p>・ボランティアの受入れは、学生による体験学習の受入れなどを行っていますが、今後はボランティア受入れに関する内容を明文化し、一般のボランティア受入れに関する体制を整備すると良いでしょう。</p>					

**Ⅲ 適切な福祉サービスの実施**

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	a
		29	② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a	a
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	30	① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	a
		31	② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	a
		32	③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a	b

[自由記述欄]

・虐待防止マニュアルを作成し、職員への研修を実施しています。ニュース等で報道された虐待案件については全職員で内容を共有し、共通理解を持って対応出来るよう取り組んでいます。

・個人情報保護規程、個人情報取り扱いマニュアルを作成し、職員に周知すると共に、利用者にプライバシー保護のための同意書を提出してもらっています。

・園児の転園の際に保育の継続性に配慮した手順などを定めた文書を作成されると良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見を述べやすい体制が確保されている。	33	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	a
		34	② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a	a
		35	③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	a

[自由記述欄]

・苦情解決の体制を整備しています。行事ごとの保護者アンケート実施や、職員が直接聞いた内容は「苦情受付簿」に記録し、内容や対応方法について職員会議で話し合い、対応しています。また、共通する内容はまとめて、全保護者に報告書としてフィードバックするようにしています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b	a
		37	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	a
		38	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b	a
		39	④ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	b	b

[自由記述欄]

・危機管理委員会を設置し、ヒヤリハットノートをもとに職員会議の中で再発防止に向けて話し合っています。また、災害発生時の対応マニュアルを常時携帯出来る手帳サイズで作成し、全職員に配布し、実際に災害が発生した時に手順に沿って対応出来るよう取り組んでいます。

・不審者侵入時の対応マニュアルを作成し職員に周知しています。今後は、警察等との連携のもとで職員に対する研修を行うとより良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
Ⅲ-2 福祉サービスの質 の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な 実施方法が確立している。	40	① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	b	b
		41	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b	b
	Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉 サービス実施計画が策定されてい る。	42	① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	b	a
		43	② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	b	a
	Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に 行われている。	44	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b	a
		45	② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	a

[自由記述欄]

- ・保育の標準的な実施方法について文書化されていますが、今後は、内容の検証・見直しを定期的実施されるとより良いでしょう。
- ・全体的な計画に沿った指導計画は、年間、月間、週日案と策定し、各計画ごとに評価・反省を実施し、年度末には総括として、全職員で話し合い、次年度に向けてより良い計画となるよう取り組んでいます。
- ・子どもに関する記録はデータ上で保管されており、職員間で共有出来るようにしています。

**A-1 保育内容**

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(1) 全体的な計画の編成	46	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を編成している。	b	b
	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	47	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a	a
		48	② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a	a
		49	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a	a
		50	④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	a

[自由記述欄]

- ・全体的な計画を作成しています。今後は、定期的に全体的な計画の評価を実施し、次の作成に生かすよう取り組まれるとより良いでしょう。
- ・園舎内外は清潔に保たれており、採光、通風も良く適切な維持・管理に努めています。
- ・保育者が園児に丁寧に関わる姿があり、子どもが自分で考え、生活習慣が身につくよう促している様子がありました。また、朝の会では多くの子どもに言葉がけをする保育者の姿があり、一人一人の子どもを受容した保育に努めています。
- ・子どもが主体的に遊べるようブロック、ままごと、編み物、カード、パズルなどを揃えています。それらの玩具も、子どもの興味や発達過程、季節によって変えており、朝の登園時などは自由に遊べるようにしています。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	51	⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		52	⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		53	⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		54	⑧ 障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	a
		55	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	b
		56	⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a	a

[自由記述欄]

- ・0～2歳児は、各保育室に畳のスペースが確保されており、くつろいだ雰囲気の中で遊んだり落ち着いたりできるよう配慮しています。
- ・1・2歳児は隣接している民家を建て直した新園舎で過ごし、可動式間仕切りによって保育内容に応じて空間を有効活用しています。また、専用のランチルームで給食を食べます。
- ・3歳以上児は、複数担任制にし、職員間の情報共有を心がけています。園舎内には、園児が制作した造形物などが置かれ、子どもたちの目線に立つて楽しい保育環境となるよう努めています。年長児は年1回、嵐山まで8キロある散歩を実施しています。それらの保育内容はドキュメンテーションにより、保護者に知らせるようにしています。
- ・障がい児保育の園内研修を、専門講師や療育施設からも来園してもらい年数回行うなど、園全体で共通の認識が持てるようにしています。保育者の障がいのある子どもに対しての言葉がけも、その子のことを認め、全体の子どもにもそれを理解できるようにするもので、研修の効果が認められました。
- ・長時間保育に関する内容を指導計画等に明記されるとより良いでしょう。

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-(3) 健康管理	57	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a	a
		58	② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b	b
		59	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	b
	A-1-(4) 食事	60	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	a
		61	② 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a	a

[自由記述欄]

・内科健診・歯科健診を定期的実施し、必要に応じて、その内容を保護者に知らせています。今後は、健診結果を全ての保護者に伝えるとより良いでしょう。

・アレルギー疾患のある子どもに対する誤食防止の手順が定められています。今後は、誤食発生時の対応について定期的に訓練を実施されるとより良いでしょう。

・食育計画に沿ってクッキング保育を実施しています。クッキーやうどんなどを練るところから作ったり、味噌作りなどにも取り組んでいます。また、調理担当者は、月1回食育ミーティングを実施し、子どもや保育士の意見を給食に取り入れるよう心がけると共に、毎日のおやつを全て手作りで提供したり、給食だよりを作成するなど、内容の充実に努めています。

**A-2 子育て支援**

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	A-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	a
	A-2-(2) 保護者の支援	63	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	a
		64	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b	b
	A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	65	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b	a

[自由記述欄]

・年1回、保護者には個人懇談か保育参加のどちらかに必ず参加してもらうようにし、園の方針や保育内容について共通の理解が持てるよう配慮すると共に、子どもの様子についても話し合っています。

・虐待等の疑いがあれば、対応出来るよう仕組みを整備しています。今まで虐待案件になるような園児がいなかった事もあり、文書化されたマニュアルが無く、色々な参考資料をもとに対応出来るようにしています。今後は、その内容について職員間で共通理解が持てるようマニュアル等を整備されるとより良いでしょう。

・年度末に一年間の振り返りを、自己評価、クラス評価、乳児・幼児の評価を総括として実施しています。職員個人の自己評価は、面談シートで目標と振り返りを行い、保育の専門性の向上に繋がるよう工夫しています。